

第2章 感染症及び食中毒統計

§1 一類、二類、三類、四類及び五類感染症

医療技術の進歩により、多くの感染症が克服されてきた一方で、新たな感染症の出現や既知の感染症の再興により、感染症予防に関する施策の抜本的な見直しが必要となり、平成11年4月「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が「伝染病予防法」にかわり新たに施行され、以来平成15年、18年、20年の3回の改正が行われた。

感染症法では、発生した場合の危険性から全101疾病について一類から五類までの5つの類型及び新型インフルエンザ等感染症にわけ、それぞれの対応が決められている。

表43 年次別患者等数（一類、二類、三類感染症）

平成20年

	一類	二類	三類					総数
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS（結核は別集計）	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	総数
平成18年	-	-	1 (1)	0	33	2 (1)	-	36 (2)
19	-	-	-	5	40	-	1	46
20	-	-	-	3	31	1	-	35
川崎	-	-	-	-	7	-	-	7
幸	-	-	-	-	6	-	-	6
中原	-	-	-	-	5	-	-	5
高津	-	-	-	-	-	-	-	-
宮前	-	-	-	3	6	-	-	9
多摩	-	-	-	-	5	1	-	6
麻生	-	-	-	-	2	-	-	2

注) () 内は疑似症の再掲

資料：健康安全室

表44 月別患者等数（一類、二類、三類感染症）

平成20年

	総数	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
細菌性赤痢	3	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
コレラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸チフス	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
パラチフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	31	1	-	-	1	3	7	8	6	5	-	-	-

資料：健康安全室

表45 年齢階級別患者等数（一類、二類、三類感染症）

平成20年

	総数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～
細菌性赤痢	3	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-
コレラ	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸チフス	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
パラチフス	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	31	3	-	4	3	7	4	-	4	-	-	1	2	3

資料：健康安全室